

議会報告会 実施報告書

実施日時	平成24年11月13日（火）19:00～20:40		
会場	東浦公民館	来場者数	23人
主担当班	A	別所治、佐々木真、今大地晴美、立石武志、宮崎則夫、岡武彦	
		司会進行	別所 治
		報 告	(1) 佐々木 真 (2) 宮崎則夫
		パワポ操作	今大地晴美 記録 別所 治、佐々木 真
副担当班	C	福谷正人、山崎法子、馬淵清和、上原修一、林正男、木下章	

1 質疑応答及び意見

(1) 9月定例会の主な審議内容報告

質疑なし

(2) 議員定数についての検討状況報告

Q1：常任委員会に支障をきたすほど頻繁に欠席者がいるのか。

A1：滅多に無い。しかし、もし欠席者が出た時のことを考えている。

Q2：人数からだけでなく、財政面から報酬、経費を重視してほしい。

A2：貴重な意見として伺い、今後検討していく。

Q3：議員だけでなく、第三者機関を設けて議論した方がよいのでは。

A3：貴重な意見として伺い、今後検討していく。

(3) 市民の市議会や市政へのご意見

Q1：敦賀市の人口はここ数年横ばいになっている。その対応は。

A1：産業団地で企業誘致や駅前周辺整備等で人口増をはかっている。

Q2：旧市内のシャッターが閉まっているところが多い。その対応は。

A2：中心市街地活性化事業の中で取り組んでいるが個人の自助努力も必要。

Q3：リラポートの運営費はどのようになっているのか。

A3：一時は年間1億2千万円ほどの持ち出しであったが、指定管理者制度を導入することにより、今は約6千万円になっている。なんとか赤字幅を減らす努力はしている。

Q4：9月議会の一般質問の中で、同じような内容の質問が多い。調整できないのか。

A 4 : 同じ会派の中では、調整している。また、同じ内容のものは議員個人で止めている場合が多い。しかし、議員により観点が異なるのでそれを止める事は出来ない。

Q 5 : 先日、田中文科大臣が大学の設置を認めない発言をしていたが、敦賀の大学は大丈夫なのか。

A 5 : 国の事などで何とも言えない。ただ、議会として認め、市としても取り組んでいるので、後押しはしていきたい。

Q 6 : 災害時に高齢者の避難をスムーズに行うためリヤカーなどの常設はできないのか。

A 6 : 各地の自衛消防組織の中で置いているところは有る。市として補助は出しているので聞いてほしい。

Q 7 : 災害時、五幡、拳野、江良は阿曾へ非難するようになっているが、地震や津波が来たときに、そんな事が可能なのか。また、避難場に水、毛布、非常食は置いてあるのか。

A 7 : 今、危機管理担当として副市長一人を置いている。危機対策などを今検討しているので、しばらく待ってほしい。

Q 8 : 農業政策について、高齢化で後継者がいない。中長期的に後継者づくりや耕作放棄地、有休農地を無くす政策にもっと取り組んでほしい。

A 8 : 敦賀市としても、新規に農業をしようとしている方や専業農家の方には補助は出しているが、兼業農家の方には十分に行き届いていないのが事実です。今後は、政策も見直していきたい。

Q 9 : 東浦は、目の前に原発もある関係で、東北の被災されたところへ視察に行かせてほしい。市の方へ働きかけをお願いしたい。

A 9 : 話があったことは伝える。また、今、福井県内に福島で被害にあわれた方や災害に関わられたドクターなどの話を聞ける場や、講演会、報告会が多くおこなわれているのでその場などを利用して頂くと、被災された生の声が聞ける。

意見 : 東浦は 8 号線を生活道路として後ろは山、前は海と非常に狭い場所で生活している。災害が起きたときに速やかに避難できる避難道路を早く整備するよう県にも要望している。市議会としてももっとそのような議論をし、声を上げて行政側に要望してほしい。

意見 : 議員定数の話の中でも資質を高めてということがあったが、少数精鋭ということで、企業は効率化を図り汗をかいている。行政もより一層効率化に取り組んでほしい。

敦賀市議会議長 堂前 一幸 殿

平成24年12月18日

敦賀市議会報告会実施要綱第10条第1項の規定により提出します。

代表者 A班 別 所 治